

【第42回定例朝食会 議事録】

他領域と医療の Cross Discussion シリーズ②

「市民活動と医療 ～SAFECASTの放射線データへの取り組み～」

日時：2013年3月14日(木) 8時-9時

スピーカー：SAFE CAST 創始者 Pieter Franken 氏

【ご講演】

■市民活動をどのように行って来たか

福島第一原発事故の後、知人や家族の過ごす地域の放射線量がどうなっているのか心配だがガイガーカウンターが簡単には手に入らないという状況であり、どうしたらよいかという問題意識から活動が始まった。

事故後、一週間で web サイトを作った。当初は様々な所から放射線データを集めて、それを一つのマップの上にまとめて表示しようという発想であった。しかし、東京の一部地域を除きデータはほとんどない状態であった。そこで、ガイガーカウンターを購入して一般の人に渡して計測をしてもらう方針へ移行した。

3週目でお金を集めてガイガーカウンターを 600 台購入したが、あらゆる所を計測するにはまだ数がたりない。自分たちでガイガーカウンターを作って、車に取り付け、Google map の様なイメージでデータを集めることにした。

はじめは3人からスタートしたが、ボランティアが集まり始め、一週間でシステムを構築した。初めての測定は4月16日であった。

ボランティアに機械を渡して車を運転しながら計測することで広くデータを取得することができたが、福島原発の 20km 圏内のデータはとれなかった。

その後、東大や慶応大の研究者の協力もあり 20km 圏内も計測を実施することができた。最初は個人レベルの問題意識から始まったプロジェクトだが、そのうち政府の放射線の測り方に疑問をもつ自治体の協力も得られるようになった。

■今後どのように活動して行くか

現在は Google Map のように地図を作る日本の会社が 10 台の車を使って日本中を測定。それまでの多くのボランティアの方々が測定したデータを合わせ 700 万カ所の測定が達成済である。水中や飛行機を使っての上空の測定も進んでいる。1000 万カ所の測定も、もうすぐ達成できる見込みであり、インターネットを介し、多くの人の協力を得ることによって、大きなことも成し遂げられる、と実感している。

現在、沖縄から北海道までの計測が終わっている。今後は一年に少なくとも二回、同じところを計測していくことで、放射線量がどのように変わっているのかデータをとり研究につなげていきたい。世界中の多くの人々が我々のデータを使って様々なプロジェクトを行っ

ている。

様々な面で私たちのやり方がスタンダードになった。活動を始めた当時は車にガイガーカウンターを付けるなんて、とばかにされた。市民が集まることで **innovation** を生み出せる。オープンデータの利用により、日本をより良い方向に変革できると考えている。アメリカでもボランティアチームが生まれており、今後はデトロイト、LA、香港など海外でも活動を展開していきたい。

[質疑応答]

Q1) 今後、個人が生活する上でガイガーカウンターが小さくなり、携帯に取り付けられるようになることで、個人個人がセンサーの役割を果たすことができれば良いと思うが、このような可能性はあるのか？

A) 私もそれを願っているが、ガイガーカウンターは大きくすると感度が上がり、小さくすると感度が下がって計測に時間がかかる。歩きながら測定する場合は大きくする必要があり、センサーを大きくするとコストがあがる。小さくて感度のいいセンサーの作成はなかなか難しい。今はかなり小さくなったが、まだまだポケットサイズではない。これから改善の機会はあると思う。

Q2) 3.11 後、大変早いスピードでプロジェクトを進められたが、多くのボランティアの目的を同じ方向に合わせるのに苦労したのではないか？

A) このプロジェクトの目的は簡単であり、自分の子供を守るためである。同様の心配を皆が抱えていたため、まずは走り始めたのがこのプロジェクトである。考えすぎると何もできなくなるので、まずは始めてみて失敗してもよいという気持ちでどんどん進めていった。ボランティアの中には強い意見のある人もいるが、オープンで質の高い情報を得たいという目的は、皆、共通である。

Q3) ガイガーカウンターを使って計測すると二次汚染を引き起こすのではないか。放射線専門家が果たす役割は？ボランティアの市民の危険を考えると、安易に参加を募るのは良くないのではないか？

A) ポイントは2つ。一つには、ボランティアは若い人よりも 40-50 代がほとんどであり、若い人は基本的に行かないよう奨励している。もう一つは、20km 以内は一般の人ではなく、研究者など自らのリスクを十分に把握したうえで計測に参加する人たちである。

[代表理事/黒川清ご挨拶]

今回の発表を聞き、改めて、「いいと思った事はやればいい。Don't ask permission」と考える。政府が良いと言ったことを盲目的に信じるのは市民社会ではない。政府の言った事は正しい、守ろうという考え方がおかしい。政府は私たちのもの、というマインドセットが必要。これからは自分が行動を起こし、それぞれが自分のできることをすることが重要。考えるだけでは何も出てこない。行動する事が必要。Safecastは、Pieterさんが社会に必要である、と感じた活動を進めているうちに協力者が集まり、活動が広がっていた。まず行動を起こし、走りながら活動内容をより良くしていくことが大事だろう。

<了>